

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達教育学科
科目名 ※	教育学入門	単位数 ※	講義 2 単位
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	火曜・6 時限
キャンパス ※	小倉キャンパス	教室 ※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道德心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<p>1. 「なぜ人間には教育が必要なのか」という教育の基本原理や学校教育に関して、理解し基礎的な知識を習得する。</p> <p>2. 日本の教育の現状や教育課題について、データや資料に基づいて自らの考えをまとめることができるようになる。</p> <p>3. 教育に関する理解を深めるために積極的に予習・復習に取り組んだり、教育課題を解決することができる方法を考えようとしたりする。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 講義概要の説明：「教育学入門」における学習の目的、授業計画、授業の進め方、授業外の学修、評価方法など（目標1）</p> <p>第2回 人間の成長・発達と教育：「ヒトは教育によって人になる」といわれるが、なぜ人間には教育が必要なのかを学ぶ。（目標1）</p> <p>第3回 発達の理論①：「子どもの発達段階」、ピアジェ（目標1）</p> <p>第4回 発達の理論②：エリクソン（目標1）</p> <p>第5回 教育目的：学校教育の狙い、目指す人間像（目標1）</p> <p>第6回 教育制度①：教育に関する法律（目標1・2・3）</p> <p>第7回 教育制度②：日本の学校制度（目標1・2・3）</p> <p>第8回 教育課程①：現代教科の成立（目標1・2・3）</p> <p>第9回 教育課程②：問題解決学習（目標1・2・3）</p> <p>第10回 教育政策の動向：学習指導要領の改訂の流れを学ぶ（目標1・2・3）</p> <p>第11回 教育とジェンダー：隠れたカリキュラム、役割取得と社会化とは何か（目標1・2・3）</p> <p>第12回 保育とジェンダー：保育分野にみるジェンダーバイアスとは何か（目標1・2・3）</p> <p>第13回 現代日本の教育課題：（1）体罰、不登校、いじめ、逸脱（目標1・2・3）</p> <p>第14回 現代日本の教育課題：（2）多文化共生と教育（目標1・2・3）</p> <p>第15回 現代日本の教育課題：（3）ESD（education for sustainable development）持続可能な開発のための教育（目標1・2・3）</p>		
評価方法 ※	授業への取り組み（発言、発表）やリアクションシート、各回の予習復習課題（30%）＋定期試験（70%）の成績を総合して評価する。		

評価基準	<p>1. 「なぜ人間には教育が必要なのか」という教育の基本原理や家庭・学校・地域社会の教育役割・機能に関して、理解し基礎的な知識を習得できたか。</p> <p>2. 日本の教育の現状や教育課題について、データや資料に基づいて自らの考えをまとめることができたか。</p> <p>3. 教育に関する理解を深めるために積極的に予習・復習に取り組んだり、教育課題を解決することができる方法を考えようとしたか。</p>
テキスト	文部科学省HP <a href="http://www.mext.go.jp/">http://www.mext.go.jp/</a>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自覚的・主体的・能動的な受講が望まれる。</li> <li>・ この授業はGoogleクラスルームを用いて遠隔授業（オンデマンド授業）を行う。授業が始まる前日までにキャンパスプランポータルに授業を受ける方法が配信されるので、履修希望者は確認すること。</li> </ul>
授業シラバス	<a href="https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx">https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx</a>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名 ※	観光ビジネスⅠ		単位数 ※ 2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	火曜・1時限
キャンパス ※	千葉経済大学短期大学部	教室 ※	402
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のキャリアアップステージに位置づけられます。		
授業目的 ※	<p>観光は旅行業、宿泊業をはじめとして運輸業、飲食業などいろいろな産業と関連して地域の雇用創出に役立っています。千葉県には全国トップの観光施設である東京ディズニーリゾートや国内外から多くの人が集う幕張メッセなどがあります。観光による地域活性化に取り組んでいる事例を見ながら観光の現状を学びます。ウイズコロナでのインバウンド戦略なども考えます。</p> <p>観光振興や国際会議の誘致などの担当教員の実務経験に基づいて、観光ビジネスの様々なネットワークによる事業展開の事例を紹介しますので、観光ビジネスの魅力を理解することができます。</p> <p>観光ビジネスに従事しているゲストスピーカー（旅行業など）の講義も行う予定です。</p>		
到達目標	<p>①地域活性化事例から現状の観光ビジネスを理解する。</p> <p>②観光ビジネスの具体的なイメージを持ち、進路決定に役立てる。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>以下の内容で進める予定です。</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 千葉県観光の現状</p> <p>第3回 日本の観光振興状況</p> <p>第4回 グリーンブルーツーリズム</p> <p>第5回 産業インフラの効果（1）</p> <p>第6回 産業インフラの効果（2）</p> <p>第7回 観光資源（1）</p> <p>第8回 観光資源（2）</p> <p>第9回 国際観光（インバウンドの効果）（1）</p> <p>第10回 国際観光（インバウンドの効果）（2）</p> <p>第11回 地域の活性化事例（1）</p> <p>第12回 地域の活性化事例（2）</p> <p>第13回 観光ビジネスで働くこと</p> <p>第14回 ホスピタリティマインド</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 ※	テスト（40%）、レポート（40%）、授業への取り組み能動性（20%）を総合的に評価します。		
評価基準			
テキスト	指定なし。授業時に資料等を配布します。		
注意事項	特になし。		
授業シラバス	<a href="https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1915&amp;nendo=2024">https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1915&amp;nendo=2024</a>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉明德短期大学	学部・学科名 ※	保育創造学科
科目名※	日本国憲法	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	火曜日・1限
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	232AB
学修分野			
授業目的※	幼稚園教諭第二種免許状（第66条の6に定める科目）		
到達目標	・日本国憲法が成立するまでの歴史の概略を理解し、日本国憲法の意義を説明できる。		
授業内容	<p>憲法が作られた経緯（歴史）を知り、そこから生まれた基本原則を確認していきます。次に、人権とは何か、人権の大切さ、人権の内容をみんなで考え、最後に、人権と人権がぶつかったときどう解決したらいいかを考えます。また、国民主権、民主主義とは何かを考え、これに基づき討論する機会を設けます。</p> <p>最後に、日本の国の将来の在り方を憲法がどのように示しているのかを考えたいと思います。このことと保育の考え方の繋がりを意識してもらいたいと思います。</p>		
授業形態※	講義		
評価方法※	コメントペーパー 10% 随時のレポート 60% 討論への参加状況 30%		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	<p><a href="#">第1回 オリエンテーション・憲法ができるまで</a></p> <p><a href="#">第2回 憲法の基本原則・基本的人権の尊重</a></p> <p><a href="#">第3回 基本的人権概説</a></p> <p><a href="#">第4回 自由権的基本権①</a></p> <p><a href="#">第5回 自由権的基本権②</a></p> <p><a href="#">第6回 人権と人権の衝突・調整</a></p> <p><a href="#">第7回 社会権的基本権特に生存権について</a></p> <p><a href="#">第8回 平和主義</a></p> <p><a href="#">第9回 討論</a></p> <p><a href="#">第10回 国民主権</a></p> <p><a href="#">第11回 統治の機構概説（国の仕組み）</a></p> <p><a href="#">第12回 地方自治</a></p> <p><a href="#">第13回 憲法と現実の社会①</a></p> <p><a href="#">第14回 憲法と現実の社会②</a></p> <p><a href="#">第15回 まとめ～もう一度歴史を振り返る。そして未来へ</a></p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	ゲーム制作基礎	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	火曜・1限
キャンパス ※	東京情報大学	教室 ※	オンライン
学修分野			
授業目的 ※	<p>コンピュータ・ゲームの制作にはプログラミング技術の取得が必要であるが、ゲーム制作に特化した開発ツールを利用することによって、プログラミング技術を習得していない者でもゲームの内部処理を学び、自分のアイデアを表現することができる。本授業は、まずゲーム制作を体験してみることで、企画立案、デザイン設計、システム開発、さらにアルゴリズムや物理シミュレーションの活用等に触れ、受講生のその先の学習・研究の方向性を見極める一つの助けとなることを目的とする。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構想したゲームを実際に制作することによって、情報技術の基礎を習得する。</li> <li>・ 過去の代表的なゲームによって表現された、「競争」や「戦略」「解決」のモデル化技術を具体例から学ぶ。</li> <li>・ ゲーム制作における乱数と変数の利用、データや物理シミュレーションの活用から数学・物理学的アプローチを理解し身につける。</li> </ul>		
授業内容	<p>1. ガイダンス  ★授業の目的、内容の説明 ★ゲーム制作演習の概要 ★ ツールの基本操作</p> <p>2. ゲーム制作のプロセス  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲームの構成要素</li> <li>・ イベントとアクション</li> </ul> </p> <p>3. 代表的なゲームの分析  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レトロゲームの歴史</li> <li>・ シューティングゲーム</li> <li>・ プラットホームゲーム</li> </ul> </p> <p>4. ゲーム制作①  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレーヤー・キャラクターの制御</li> <li>・ コンピューター・キャラクターの制御</li> <li>・ 条件判定キャラクターの制御</li> </ul> </p> <p>5. 数値の計測と制御  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 得点の仕組みと制御</li> <li>・ スコア、ライフ、ヒットポイント等の制御</li> <li>・ 数値の表示法</li> </ul> </p> <p>6. 空間の設計と制御  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ RPGの構成要素</li> <li>・ 画面レイアウトの設計</li> <li>・ マップ、アイテム、障害物</li> </ul> </p>		

授業内容	<p>7. 時間の制御</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実時間の計測とフィードバック</li> <li>・制限時間とルール</li> </ul> <p>8. ゲーム制作②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スコア、時間、HP、自機数などの表示制御</li> <li>・タイトル、背景、UIのデザイン</li> <li>・レイヤーの理解と活用</li> </ul> <p>9. 物理シミュレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重力のシミュレーション</li> <li>・衝突、摩擦、慣性のシミュレーション</li> </ul> <p>10. ゲームAIの基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乱数制御による移動と攻撃</li> <li>・手加減の表現</li> </ul> <p>11. ゲーム制作③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームの企画</li> <li>・システム設計</li> </ul> <p>12. ゲーム制作④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム・グラフィックの制作</li> <li>・実装とデバッグ</li> </ul> <p>13・14.ゲーム制作⑤⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の進行と統合</li> </ul> <p>15. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題作品の講評</li> <li>・授業のまとめ</li> </ul>
授業形態※	講義+演習形式で行う。WebClassを活用し、スライド、参考資料は逐次配信する。ゲーム制作アプリケーションは主に「ClickTeam Fusion2.5 free edition」を使用する。
評価方法※	課題、レポート
評価基準	<p>課題（4回の基礎課題、1回の総合課題を課す。基礎課題では学習効果の測定、総合課題では総合的にこの授業の学習の到達度を判定する。）80%</p> <p>レポート（講義内容に関連するテーマで調査と分析を行い、自分の考察を加えたレポートを作成。詳細は講義内で通知する。）20%</p>
テキスト	指定しない。毎回の授業の資料はWebClassに掲示する。
注意事項	
授業シラバス	<p>シラバス検索ページ</p> <p><a href="https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006">https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006</a></p> <p>※開講年度学期（2024後期）、授業科目「コンピュータグラフィックス基礎」で検索</p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	地理情報システム a	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	火曜・1限
キャンパス ※	東京情報大学	教室 ※	1号館1階102
学修分野			
授業目的 ※	<p>地理情報システムは、あらゆる地理空間情報を地図上に表示しながら、その属性をデータベースとして管理できるシステムである。地形・地質・気温・生物の分布や、土地利用・道路・鉄道・人口の分布などの、様々な環境データを解析し、その結果を公開することもできる。講義では、業界標準ソフトウェアのArcGISを用いて、その概念と技術を習得する。</p>		
到達目標	<p>地理情報システムの基礎概念を理解する                  地理情報システムのデータ構造を理解する                  地理情報システムの操作技術を習得する                  地理情報システムを用いて新たな地図を作成できる                  地理空間情報についての基礎知識を身に付ける                  これらの目標をふまえて、自然や社会に関する幅広い教養と、衛星画像などのビッグデータを扱ううえで必要な知識、高い情報技術を身につけることで、情報社会に対応できるようになる</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・イントロダクション</li> <li>2. ArcGISの基本操作：データの閲覧と追加・主題図の作成</li> <li>3. ArcGISの基本操作：属性検索（データの種類と構造）</li> <li>4. 空間検索</li> <li>5. 空間検索と属性テーブルの編集</li> <li>6. ジオプロセッシング：ディゾルブ・クリップ</li> <li>7. ジオプロセッシング：マージ・ユニオン・インターセクト</li> <li>8. 地図投影法・地図投影演習</li> <li>9. 属性テーブルの編集：リレートと結合</li> <li>10. ジオコーディング：住所データでの演習（アドレスマッチング）</li> <li>11. ジオコーディング：ラスターデータでの演習</li> <li>12. データの利用と公開</li> <li>13. データの利用と公開：ポータルサイト</li> <li>14. データの利用と公開：官公庁のサイト</li> <li>15. まとめ・試験</li> </ol> <p>地理空間情報に関する知識習得のための講義と、技術習得のための演習をセットで行う。</p>		
授業形態 ※	<p>毎回、課題を提出する。講義資料と、講義内容の理解度を測る課題をWebClassに掲載する。</p>		
評価方法 ※	<p>課題、平常試験</p>		
評価基準	<p>課題（講義内容についての理解度を評価する）20%                  平常試験（到達目標の冒頭5項目の習熟度を試験から判断し、評価する。）80%</p>		

テキスト	なし。講義時間中に適宜、紹介する。
注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ <a href="https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006">https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006</a> ※開講年度学期（2024後期）、授業科目「コンピュータグラフィックス基礎」で検索

※は必須記入事項



ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	東南アジア宗教論 I	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	火曜日 2 時限
キャンパス ※	幕張キャンパス	教室 ※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>①授業のテーマと概要 上座部仏教とはミャンマー、タイ、カンボジア、ラオス、スリランカにて多数派の人々が信仰している仏教のことです。ただし、同じ仏教でも、私たちの知る日本の仏教とは大きく異なっています。例えば、上座部仏教の僧侶は、一般の人々を救うためではなく、基本的には自分自身の救済のために出家しています。それなのになぜ僧侶は、人々から広く尊敬を集めているのでしょうか。本授業では、上座部仏教について、こうした基本的な考え方や実践内容を学ぶとともに、伝統的な王権との関係や、現代社会への対応、女性の出家の現状などを考えます。</p> <p>②到達目標 東南アジアの上座部仏教社会について理解を深め、その価値観を尊重することができる。 (DP3、7) 同時にテーマに基づいて異文化社会を批判的に分析することができる。(DP5)</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回オリエンテーション 第2回上座部仏教とは何か 第3回GW課題（持戒体験） 第4回出家者の仏教： なぜ出家するのか① 第5回出家者の仏教： なぜ出家するのか② 第6回出家者の仏教： なぜ出家するのか③ 第7回在家者の仏教： 積徳行とは何か 第8回歴史： 王権と仏教 第9回仏塔と経済 第10回女性は出家できるか① 第11回女性は出家できるか② 第12回社会参加仏教 第13回レポートの相互評価 第14回仏教と政治 第15回仏教と少数民族</p>		
授業形態 ※	対面		

評価方法※	1) リアクションペーパー： 10% 2) 課題： 30% 3) 期末レポート： 60% ※欠席は1回につき減点3%
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 ( <a href="https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/">https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/</a> ) からシラバス検索で該当科目を 確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経営学科
科目名※	流通論Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	火-2
キャンパス※		教室※	2-201
学修分野			
授業目的※	<p>流通は、商品と人々をつなぐために必要な要素である。つまり、生産者の立場であっても、消費者の立場であっても、この仕組みが日々の暮らしの中で欠かせないということである。流通を理解することは社会やビジネスの中に存在する大きな流れやシステムを理解することにつながる。したがって流通の仕組みを学ぶことで、ビジネスを多面的に捉えることができるようになる。この授業では、流通に関する基本的な知識を学修していく。また、必要に応じて具体的な事例を参照し、仕事や働くということをイメージしながら流通の世界を体感していく。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識、技能）（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目である。</p>		
到達目標	<p>商学関連分野である、流通や商品の基礎的な知識が修得できる。課題を通じてさまざまな小売業態やメーカーのビジネスモデルなどを分析していくことで、現在起きている現象に対して自分なりの説明ができる。</p>		
授業内容	<p>第1回 イントロダクション：授業のスケジュールや内容について  第2回 商業とは何か：商業の成り立ち  第3回 流通の生成：流通の発展過程  第4回 商品の概念：商品とは何か  第5回 商品と品質：品質の構造について  第6回 商品とデザイン：デザインとパッケージング  第7回 流通の機能：流通機能の意義  第8回 小売業とは何か：小売業の現状について  第9回 小売業の構造：小売機構の構造変化  第10回 小売業の種類と特徴：小売業の分類  第11回 小売業のイノベーション：小売業態の発展理論  第12回 小売業のマーケティング：小売業のマーケティング手段について  第13回 卸売業の役割：卸売業の機能と構造  第14回 物流の諸機能：物流研究の意義  第15回 物流のイノベーション：物流の課題と展望</p>		
授業形態※	対面		

評価方法※	<p>期末試験（70％）、授業内課題（30％）で評価する。期末試験、授業内の課題では、学修の成果を確認する。</p> <p>授業内課題は次回以降の授業でフィードバックを行う。</p>
評価基準	
テキスト	指定なし。
注意事項	<p>授業内では小論文形式の課題提出など、自分の考えを形にして表現する時間を設けるので、アウトプットを充実させるためにさまざまな事柄に関心を持ち、情報収集を心がける。</p> <p>講義資料と授業内容を合わせて自分なりのノート作成を行う。</p>
授業シラバス	<a href="https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1">https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1</a>

※は必須記入事項





ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名 ※	自然科学への招待A		単位数 ※ 2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	火曜・2時限
キャンパス ※	千葉経済大学短期大学部	教室 ※	203
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のベースステージに位置づけられます。		
授業目的 ※	<p>「物質・原子・原子核・素粒子・・・（ミクロの世界）」</p> <p>自然の世界は、大きさのスケールでいえば極微の素粒子から極大の宇宙まで広がり、時間のスケールでいえば宇宙の誕生からその死まで続いています。自然科学は、これら自然に存在するものすべてを対象とし、それらの構造や仕組み、変化の仕方を調べ、できるだけ簡単な法則でしかも統一的に理解しようとする学問です。</p> <p>広い意味の自然科学は、数学や理科（物理・化学・地学・生物など）に相当しますが、ここでは特に理科（物理・化学・地学）に関わる内容を扱います。“理科”というと難しいというイメージを抱くかもしれませんが、授業では難しい数式や計算は使いません。スライドや動画を使って、できるだけわかりやすく概念を伝えるような説明を行うつもりです。</p> <p>「自然科学への招待A」では、光や音、原子や原子核、放射線、素粒子といった「小さな（ミクロ）世界」に目を向けます。また毎月の星座や天文現象なども紹介します。</p>		
到達目標	<p>① 社会人として知っておくべき理科の知識と教養を身につける。</p> <p>② 身近なものごと・現象の理学的理解ができるようになる。</p> <p>③ 公務員試験「自然科学」分野の準備となる。</p>		
授業内容	<p>以下の内容で進める予定です。</p> <p style="text-align: center;">（履修者の状況により適宜変更する可能性もあります。）</p> <p>第1回 自然界のスケール  第2回 数値の表し方  第3回 単位  第4回 光と色  第5回 虹と青空  第6回 電磁波  第7回 音  第8回 運動・力・重力  第9回 物質と分子・原子  第10回 固体・液体・気体</p>		
授業形態 ※	<p>第11回 元素の周期表  第12回 原子の構造  第13回 原子核  第14回 核分裂と核融合、放射線  第15回 素粒子</p> <p>講義を中心として、PCによるスライド・資料提示を行います。</p>		

評価方法※	授業への取り組みの能動性（30%）、期末試験（70%）により総合的に評価する予定です。
評価基準	
テキスト	指定なし。 毎授業時に資料プリントを配布します。
注意事項	特になし
授業シラバス	<a href="https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1520&amp;nendo=2024">https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1520&amp;nendo=2024</a>

※は必須記入事項



ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達教育学科
科目名 ※	バイオリテラシー入門	単位数 ※	講義 2単位
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	火曜・3時限
キャンパス ※	小倉キャンパス	教室 ※	基礎医学実習室
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道德心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<p>1.生き物や生命現象についての基本的な知識を習得する。</p> <p>2.生物の中に潜む法則性と生物間の多様性について、多様な側面から考えることができるようになる。</p> <p>3.日常の生活と、生物学との係わりや意義について理解できるようになる。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 脊椎動物の進化と分類 1 (恐竜の特徴・爬虫類の進化と分類について) (目標1,2,3)</p> <p>第2回 脊椎動物の進化と分類 2 (鳥類の特徴と進化について) (目標1,2,3)</p> <p>第3回 脊椎動物の機能と生態 (コアジサシについて) (目標1,2,3)</p> <p>第4回 脊椎動物の進化と分類 3 (哺乳類の特徴と進化について) (目標1,2,3)</p> <p>第5回 脊椎動物の進化と分類 4 (クジラの特徴について (目標1,2,3)</p> <p>第6回 生物・動物の分類 (目標1,2,3)</p> <p>第7回 棘皮動物の進化と分類 (ウニについて) (目標1,2,3)</p> <p>第8回 新口動物の分類と進化 1 (目標1,2,3)</p> <p>第9回 新口動物の分類と進化 2 (目標1,2,3)</p> <p>第10回 動物と植物 (目標1,2,3)</p> <p>第11回 エネルギー代謝 (何故お腹がすくか?) (目標1,2,3)</p> <p>第12回 糖代謝 (目標1,2,3)</p> <p>第13回 タンパク質・脂質代謝 (目標1,2,3)</p> <p>第14回 外呼吸 (目標1,2,3)</p> <p>第15回 内呼吸 (目標1,2,3)</p>		
評価方法 ※	期末試験 (75%) , ポートフォリオ・レポート等 (25%) の総合評価とする。		
評価基準	<p>1.生き物や生命現象についての基本的な知識を習得できたか。</p> <p>2.生物の共通性と多様性について、多様な側面から考えることができたか。</p> <p>3.日常の生活と、生物学との係わりや意義について理解できたか。</p>		
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		

<p>注意事項</p>	<p>生物学に基礎について、日常生活との関係から理解し、それに基づいて判断できるような資質の獲得を目指す。また、関連する分野の広い生物学全体を俯瞰したり、自分なりの生命観を持てるようになる。</p> <p>基礎医学実験室に収容可能な36人を上限とする。</p> <p>この科目は履修人数に制限があります。年度初めガイダンスのアナウンスをよく聞き、履修の手続きをしてください。</p>
<p>授業シラバス</p>	<p><a href="https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx">https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx</a></p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名※	ブラジルの民族・地理	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	火曜日 3時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的※	<p>ブラジルの自然や民族の多様性を学び、ブラジル研究を進める上で必要な知識を得ることを目的とする。</p> <p>授業ではブラジルの5つの地域の特徴を概観しながら、先住民をはじめとし、現在ブラジルに居住するアフリカ系、ヨーロッパ系、アジア系等の人々の移住の経緯や文化、地理や都市に関する知識を深める。受講者はブラジルの都市、移住者集団についてプレゼンテーションを実施することで、特定のテーマに関する専門知識を身につける。</p> <p>Google Classroomにアップされている授業で使用するプリントは必ず予習しておく。また、授業開始時には前回の授業の内容に関する質問をするので復習にも力を注ぐ必要がある。</p> <p>ブラジル・ポルトガル語専攻以外の学生の受講も歓迎する。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回講義概要および提出課題の説明 ブラジルの基礎知識の確認</p> <p>第2回ブラジル史概観</p> <p>第3回ブラジル5地域の特徴を知る（オンデマンド）</p> <p>第4回アフリカ系住民（移住の経緯、文化と生活）</p> <p>第5回先住民の生活と文化</p> <p>第6回ヨーロッパ移民（イタリア系、ドイツ系など）</p> <p>第7回アジア系移民（中東系、中国系、韓国系）</p> <p>第8回アジア系移民（日本移民）</p> <p>第9回在外ブラジル人（移住の経緯と生活生活文化）</p> <p>第10回ブラジルの移住者集団に関する発表</p> <p>第11回ブラジルの地形と気候</p> <p>第12回ブラジルの都市①</p> <p>第13回ブラジルの都市②</p> <p>第14回ブラジルの地域（都市）に関する発表</p> <p>第15回総括と期末試験</p>		
授業形態※	対面		

評価方法※	原則として4回欠席した者、課題（プレゼン資料）未提出者、試験未受験者は評価の対象から外す。 授業貢献20%、課題（プレゼン）30%、期末試験50%。成績はA+からFの評価とする。
評価基準	
テキスト	
注意事項	<b>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（<a href="https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/">https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/</a>）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</b>
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉明德短期大学	学部・学科名 ※	保育創造学科
科目名※	音楽表現演習Ⅰ（ギター）	単位数 ※	1
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	火曜日・3限
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	33
学修分野			
授業目的※	保育の内容・方法に関する科目		
到達目標	ギターについての基礎的な知識や技術を学び、こどもの歌の弾き歌いや簡単な独奏曲を演奏することができる。		
授業内容	保育の内容を理解し、展開するために必要な保育の表現技術の一つである歌唱およびピアノやギターなどの伴奏楽器を用いた演奏の力量を高めることを目的として、少人数によるグループ授業を行う。「こどものうた」を知り、演奏することを通して、音楽を感じる心と豊かにする表現力を養う。グループ授業による歌唱や演奏技術の習得、授業内での実技試験、音楽理論の筆記試験を実施する。		
授業形態※	演習		
評価方法※	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題曲の達成度・実技試験 — 40%（実技試験を辞退した場合は、単位不可となります。）</li> <li>・授業の取り組み — 40%</li> <li>・音楽理論の筆記試験 — 20%</li> </ul>		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	<p><a href="#">第1回 楽器に関する基礎知識、フォーム</a></p> <p><a href="#">第2回 開放弦による右手フォーム、左手ポジション</a></p> <p><a href="#">第3回 五線譜、ギターコードダイアグラムの読み方</a></p> <p><a href="#">第4回 スケール、単音の練習曲</a></p> <p><a href="#">第5回 和音押弦の練習、左右フォーム</a></p> <p><a href="#">第6回 和音の練習曲</a></p> <p><a href="#">第7回 アルペジオ音型①</a></p> <p><a href="#">第8回 アルペジオ音型②</a></p> <p><a href="#">第9回 独奏曲の運指法、声部理解、断絃法</a></p> <p><a href="#">第10回 独奏曲によるアーティキュレーション</a></p> <p><a href="#">第11回 初級独奏曲①</a></p> <p><a href="#">第12回 初級独奏曲②</a></p> <p><a href="#">第13回 音楽基礎知識（楽典）試験、実技試験準備</a></p> <p><a href="#">第14回 実技試験、まとめ</a></p> <p><a href="#">第15回 学内コンサートの鑑賞</a></p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	認知発達と英語教育A	単位数 ※	4
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	火曜日 4時限 金曜日 3時限 (2コマセットの授業)
キャンパス ※	幕張キャンパス	教室 ※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>①授業のテーマと概要</p> <p>本講座は、ことばの習得において重要な役割を担う乳幼児期・児童期に、「子どもの認知と言語がどのように発達するか」を学ぶ。</p> <p>授業では、認知と言語の発達に関する種々の側面（概念の形成、語彙の発達、脳の機能と発達、文法の理解の発達、発達障害、心の理論など）を科学的な研究に基づいて学ぶ。さらにPiagetの発達理論やVygotskyの社会文化理論などの諸理論より、学習がどのように成立するか学ぶ。</p> <p>②授業の目的と到達目標</p> <p>本講座において学生は、以上の認知発達の過程と特徴、および、子どもの心理と言語習得に関する知識を修得すると同時に、これらの知識をどのように英語教育の指導方法や指導技術に応用できるかをともに考える。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回クラスの紹介</p> <p>第1章 枠組みと方法</p> <p>子どもの発達に関する重要な課題や疑問、また発達研究において用いられる主な行動学的・神経生理学的方法について学ぶ。</p> <p>第2回第1章 枠組みと方法</p> <p>子どもの発達に関する重要な課題や疑問、また発達研究において用いられる主な行動学的・神経生理学的方法について学ぶ。</p> <p>第3回第2章 理論と方法</p> <p>ロックやルソーの発達理論を学ぶ。またピアジェの発達の見方とヴィゴツキーの発達の見方の主要な点を学ぶ。さらに、愛着理論と動物行動学におけるその起源について、また、神経構成主義と、ウィリアムズ症候群のような発達障害が神経構成主義の枠組みの中でいかに理解できるかについて学ぶ。</p> <p>第4回第2章 理論と方法</p> <p>ロックやルソーの発達理論を学ぶ。またピアジェの発達の見方とヴィゴツキーの発達の見方の主要な点を学ぶ。さらに、愛着理論と動物行動学におけるその起源について、また、神経構成主義と、ウィリアムズ症候群のような発達障害が神経構成主義の枠組みの中でいかに理解できるかについて学ぶ。</p> <p>第5回第3章 乳幼児期への導入</p> <p>胎児期の発達と母親の影響、早産の長期にわたる認知的影響、早期の運動能力、生後1週間の赤ちゃんの知覚について学ぶ。</p>		

授業内容

第6回第4章 乳児期の認知発達

乳児の対象のカテゴリー化の発達、初期の認知発達について学ぶ。

第7回第5章 初期の言語発達

言語発達が乳児の誕生前から始まっていること、乳児の音素認識について、喃語の段階、初期の言語発達と社会的文脈、語の認識、乳児の語彙の測定法などを学ぶ。

第8回第5章 初期の言語発達

言語発達が乳児の誕生前から始まっていること、乳児の音素認識について、喃語の段階、初期の言語発達と社会的文脈、語の認識、乳児の語彙の測定法などを学ぶ。

第9回第6章 乳児期における社会的、情動的発達

ここでは他者との関係が認知や言語的発達へばを提供するとともに、社会的、情動的発達に重要であることを学ぶ。乳児期に起こっていることは個々の生涯を通して起こることに影響することを学ぶ。具体的には、乳児の顔の認識能力とその重要性、早期の発達における模倣の役割、愛着について学ぶ。

第10回第6章 乳児期における社会的、情動的発達

ここでは他者との関係が認知や言語的発達へばを提供するとともに、社会的、情動的発達に重要であることを学ぶ。乳児期に起こっていることは個々の生涯を通して起こることに影響することを学ぶ。具体的には、乳児の顔の認識能力とその重要性、早期の発達における模倣の役割、愛着について学ぶ。

第11回第7章 就学前期への導入

2歳から6歳の脳の発達と身体的、精神的発達、運動能力の主な変化、描画能力の発達について学ぶ。

第12回第7章 就学前期への導入

2歳から6歳の脳の発達と身体的、精神的発達、運動能力の主な変化、描画能力の発達について学ぶ。

第13回第8章 就学前期の認知能力

就学前期におけるピアジェの認知発達に関する考え、推理や問題解決の発達とそれらの測定方法・課題、見かけと現実の区別の発達、心の理論の発達と自閉スペクトラムとの関係について学ぶ。

第14回第8章 就学前期の認知能力

就学前期におけるピアジェの認知発達に関する考え、推理や問題解決の発達とそれらの測定方法・課題、見かけと現実の区別の発達、心の理論の発達と自閉スペクトラムとの関係について学ぶ。

第15回第9章 就学前期における言語発達

内側から外への言語発達理論と外側から内への言語発達理論、チョムスキーとピンカーの生得理論、文法的発達と子どもが受ける言語入力との関係について、過大規則化の誤りと、それがなぜ言語発達の理論において重要であるか、早期の文法理解を理解するための選好注視法、特異的言語発達障害の主な特徴などについて学ぶ。

第16回第9章 就学前期における言語発達

内側から外への言語発達理論と外側から内への言語発達理論、チョムスキーとピンカーの生得理論、文法的発達と子どもが受ける言語入力との関係について、過大規則化の誤りと、それがなぜ言語発達の理論において重要であるか、早期の文法理解を理解するための選好注視法、特異的言語発達障害の主な特徴などについて学ぶ。

授業内容

第17回第10章 就学前期の社会性と情動の発達

就学前期の子どもの友達関係の発達と良好な相互交渉の基礎となる重要なスキルについて、性差について気づき、自己理解、ふり遊びの発達の意義などについて学ぶ。

第18回第11章 児童中期への導入

運動技能の発達と行動の性差、脳の発達過程、注意欠如多動性（ADHD）の主要な特性と診断方法、発達性協調運動症（DCD）の特性とそれを持つ子どもの動きの計画の困難さについて学ぶ。

第19回第12章 児童中期の認知発達

ピアジェの具体的操作的推理、ワーキングメモリの変化、数的処理を学ぶときに直面する課題、計算障害の特徴、数学的能力の文化間の差について学ぶ。

第20回第12章 児童中期の認知発達

ピアジェの具体的操作的推理、ワーキングメモリの変化、数的処理を学ぶときに直面する課題、計算障害の特徴、数学的能力の文化間の差について学ぶ。

第21回第12章 児童中期の認知発達

ピアジェの具体的操作的推理、ワーキングメモリの変化、数的処理を学ぶときに直面する課題、計算障害の特徴、数学的能力の文化間の差について学ぶ。

第22回第13章 読み書き能力（リテラシー）

子どもはどのように読みを学ぶかを決める主要な要因、記号解読スキルと読みの理解の違い、書体によって読みの困難度が違う理由、子どもが文字を綴るときに用いる方法、発達性ディスレクシアの特徴と読みの理解の障害との違い、手書きの困難さが学校での学習に影響する理由などについて学ぶ。

第23回第13章 読み書き能力（リテラシー）

子どもはどのように読みを学ぶかを決める主要な要因、記号解読スキルと読みの理解の違い、書体によって読みの困難度が違う理由、子どもが文字を綴るときに用いる方法、発達性ディスレクシアの特徴と読みの理解の障害との違い、手書きの困難さが学校での学習に影響する理由などについて学ぶ。

第24回第13章 読み書き能力（リテラシー）

子どもはどのように読みを学ぶかを決める主要な要因、記号解読スキルと読みの理解の違い、書体によって読みの困難度が違う理由、子どもが文字を綴るときに用いる方法、発達性ディスレクシアの特徴と読みの理解の障害との違い、手書きの困難さが学校での学習に影響する理由などについて学ぶ。

第25回第14章 児童中期の社会性と感情性の発達

友人関係の発達、「公正」「悪意」の考え方の発達、ピアジェとコールバーグによる道徳性の発達、「感情表現ルール」の意味と、非社会的状況に対する子どもの反応の変化、性役割（ジェンダー）の発達について学ぶ。

第26回第15章 青年期の導入

青年期を通じての脳の発達変化と、青年期特有の行動との関係、青年期の行動に及ぼす文化の影響について学ぶ。

第27回第16章 青年期の認知発達

ピアジェの形式的操作的推理、道徳的推理、青年期の実行機能の発達とその大脳の発達との関係について学ぶ。



授業内容	第28回第17章 青年期の社会的、情動的発達 青年期の道徳的判断は社会・文化的要因にどのように影響されるか、青年期の家族・友人との関係の重要性、愛着の長期にわたる成り行き、攻撃性といじめの型の性差、家族・親の役割について学ぶ。
授業形態※	第29回全体の振り返り 課題の確認 第30回期末テスト、その他 対面
評価方法※	期末テスト40% レポート 30% 宿題 30%
評価基準	
テキスト	
注意事項	<b>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（<a href="https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/">https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/</a>）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</b>
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名 ※	スポーツコンディショニング	単位数 ※	2単位
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	火曜日4限
キャンパス ※	千葉キャンパス	教室 ※	6-215
学修分野			
授業目的 ※	スポーツにおける最大目標は、競技成績の向上です。即ち、スポーツはパフォーマンスの競い合いであり、実際の競技の場において個人の持つ最大能力の発揮が要求されます。運動およびスポーツは生体に対する極めて大きなストレスであり、そのストレス解除により大きなトレーニング効果が期待できます。したがって、運動後の回復の仕方が、重要な意味を示す事になります。この「スポーツコンディショニング」では、スポーツ医科学を基礎とした生体の運動刺激・回復過程の特徴を学びます。		
到達目標	運動専門家に必要とされる、運動生理学に基づくスポーツコンディショニングの基礎を理解し説明できる。		
授業内容	<p>トレーニングおよびスポーツコンディショニングに関する次の概要を説明できる。 ①疲労・ストレス ②喫煙の影響 ③貧血と対策 ④スタミナ ⑤筋グリコーゲン ⑥スプリント ⑦サーカディアンリズム ⑧心拍数の指標 ⑨体重の指標 ⑩体温の指標 ⑪水分補給 ⑫ストレッチング ⑬アイシング</p> <p>この授業は、学生が興味を持ったキーワードやテーマをもとに、グループワークやグループディスカッションを行います。</p> <p>またリアクションペーパーを用いて授業の後半に教員が設けたテーマについて記述し提出してもらいます。</p>		
授業形態 ※	対面		
評価方法 ※	定期試験70%、授業内での小テストおよびレポート課題などの平常点30%。		
評価基準			
テキスト	適宜プリントを配布します。		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項